

(1) 馬図 (牽馬、繫馬、飾馬、裸馬、遊馬)



絵馬のルーツである「馬図」は市内では約270点で全体の約37%を占めている。このうち繫馬が5点、牽馬が10点で、「猿曳駒」と称される猿が馬を牽いている絵馬が上開発・日吉神社の1点（図録5）だけ見られる。また裸馬、遊馬を描いたものが10点で、中でも野に遊ぶ群馬を描いた灯台笹・笹葉天照皇神社の大絵馬（図録10）は圧巻である。残りはほとんど飾神馬である。

1 牽馬図 和佐谷神社 年代不詳 (80×90)

牽馬図としてはよくある絵柄で、同じ絵柄が市内に数点ある。

奉納者の谷本氏は元鶴来町長。

2 大絵馬・牽馬図

上徳山・八幡神社 年代不詳
(80×180)

大型の牽馬では風格のある絵柄である。



3 牽馬図

長滝・滝浪神社 年代不詳 (60×90)

暴れる馬を御するのはひと苦労。ユーモラスな画像である。



4 牽馬図 倉重・八幡神社 年代不詳 (80×90)
色落ちしているが、確かな線で描かれている。馬の陰に馬子がみえる。

5 さるびきこま 猿曳駒図

上開発・日吉神社 年代不詳 (80×90)

市内で唯一の猿曳駒図。猿は日吉神社と縁が深い。神猿は「魔去る」の厄除け。



6 繫馬図

三ツ屋・八幡神社 明治28年(1895) (60×90)

日清戦争から帰還の記念か。



7 絆馬図

中庄八幡神社 昭和3年(1928) (80×100)

8 大絵馬・奔馬図^{ほんば}
鍋谷・八幡神社 年代不詳
(120×180)

大型の絵馬で勢いよく駆ける馬が描かれている。



9 大絵馬・遊馬図

寺井・奥野八幡神社 嘉永7年(1854)

桜の下で遊ぶ馬の姿を描く。



10 大絵馬・群馬図

灯台笹・笹葉天照皇神社

明治15年(1882)

(110×170)

画面いっぱいに馬が遊んでいる絵柄は珍しい。

11 大絵馬・遊馬図

大長野・八幡神社

大正5年(1916)

(110×180)

九谷焼作家の高田嶺山(伝一郎)の作である。



12 白黒遊馬図

寺井・奥野八幡神社

明治38年10月15日(1905)

「幸村」の署名がある。



13 飾神馬図^(H15)

西任田・西大御神社^{にしおおみ} 天保年間(1830～) (30×38)

越前の絵馬工房「夢楽洞」の絵図である。「万司」の署名がある。

14 飾神馬図

牛島・八幡神社 嘉永5年(1852)
(100×150)

馬図としては古い。やや大きな絵馬。



15 飾神馬図^(H15)

西任田・西大御神社
慶応4年(1868) (57×90)

これも幕末の絵馬である。



16 飾神馬図

五間堂伽羅俱神社 江戸末期 (60×90)
(根上展)

江戸末期の古い絵馬である。昭和 58 年の根上展に出品されている。

17 飾神馬図

湯屋・八幡神社 明治44年(1911) (35×60)



18 飾神馬図

栗生少彦名神社 明治34年(1959)
(70×90)



19 飾神馬図

仏大寺・八幡神社 明治38年(1905) (75×90)



20 飾神馬図 辰口・八幡神社 年代不詳
奉納者の松崎氏は元辰口町長。



21 飾神馬図

大口・白山神社 昭和50年(1975) (60×70)

作者の「青苔」は来丸町の水墨画家（南画）の山田充巨氏（故人）。



22 飾神馬図

筋生・八幡神社 年代不詳 (40×45)



23 飾神馬図

高座・八幡神社 大正2年9月(1913)
(40×60)



24 飾神馬図

和気神社 昭和52年(1977) (50×70)



25 飾神馬図

下館・八幡神社 昭和62年(1987) (60×80)

26 飾神馬図

新保・八幡神社 平成25年(2013)
(60×70)



27 白黒飾神馬図

下清水神社 年代不詳 (70×80)

白黒2頭を描いたものは数少ない。





28 油彩神馬図

徳久・山上郷八幡神社 昭和56年(1981) (50×90)

氏子で画家の宮田耕二氏(故人)の作である。

29 木彫神馬図

吉光八幡神社 昭和37年(1962) (80×90)

木彫の神馬はほかにも数点みられる。



30 陶額神馬図

辰口・八幡神社 年代不詳

瓦鬼師で名工の中川答山の作。他にも答山の奉納陶額は多い。